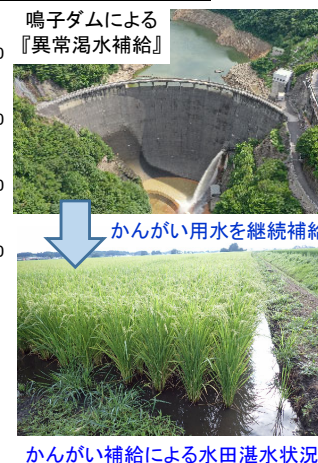
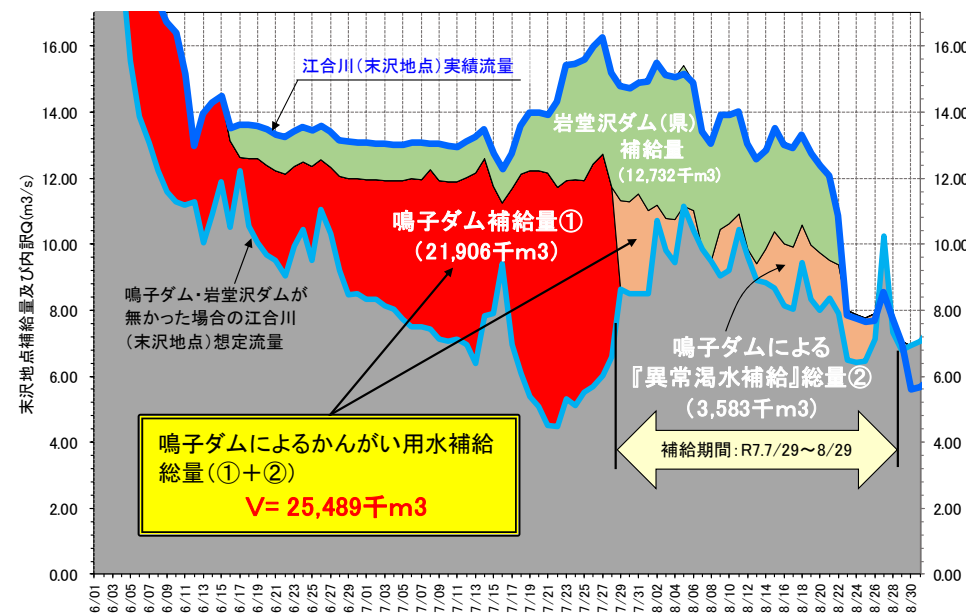
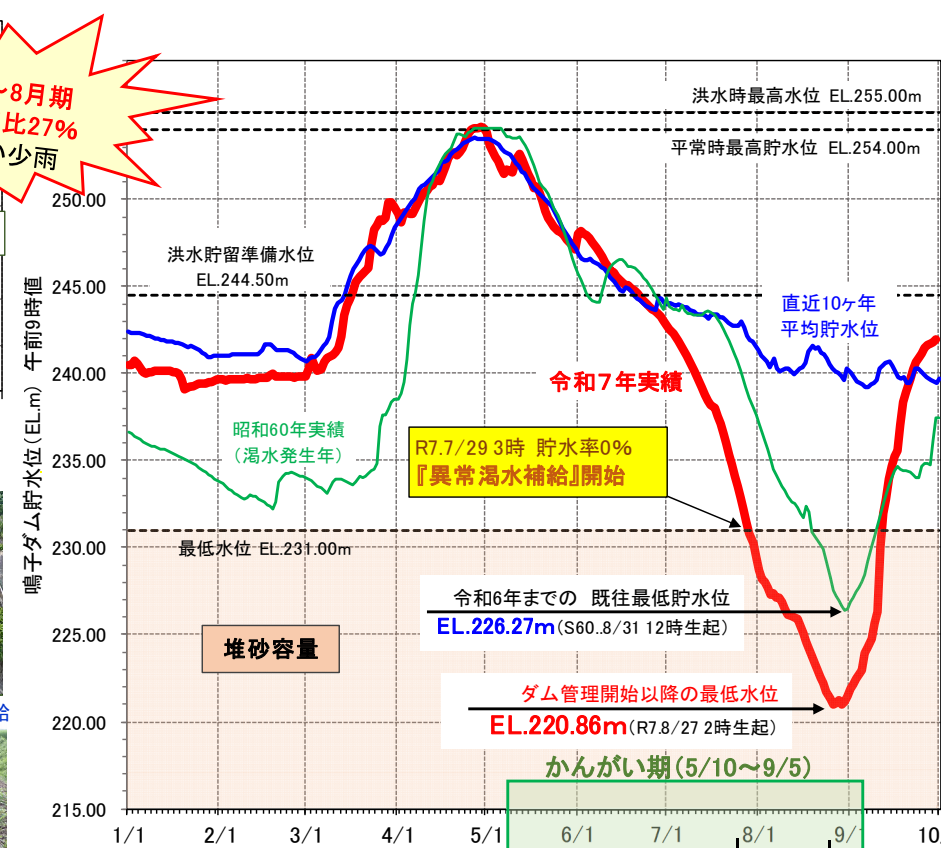
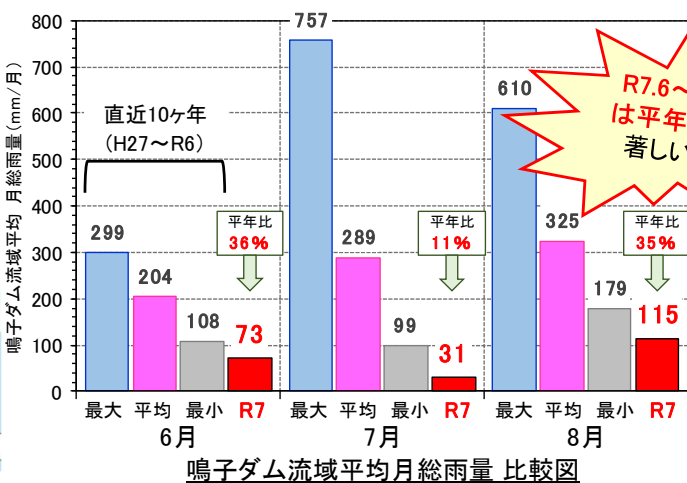
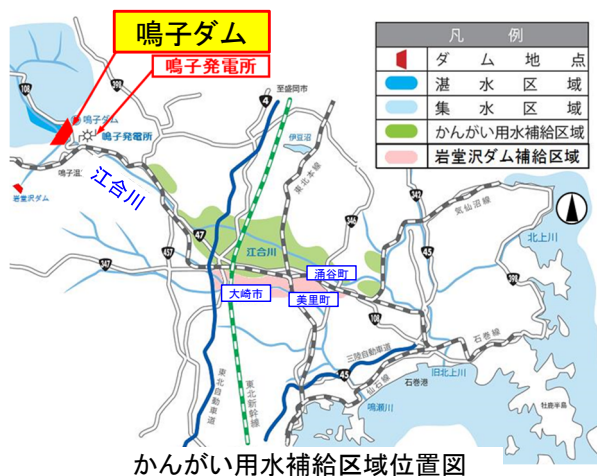


令和7年渇水における鳴子ダムの効果

- 鳴子ダム流域では令和7年6~8月期の総雨量が**直近30ヶ年で最少となる219mmを記録し**、近年で経験したことがないほどの少雨となった。
- まとまった降雨がなく、ダム貯水位が厳しい局面を迎える中、**令和7年7月29日3時に最低水位EL.231.00mを下回った**が、**最も水を必要とする出穂期に切れ目のない補給を継続**するため関係利水者からの同意のもと、最低水位以下の貯留水を使用する緊急的な手段の『異常渇水補給』を実施した。
- **合計約25百万立方メートル(東京ドーム約21杯分)**の水を補給し、水不足に不安を抱える地域の期待に応えた。
- 『異常渇水補給』によるダム放流水にはやや濁りがあったが、臨時水質検査を毎週実施した結果、水質測定計画における測定地点では問題がない事を確認している。



左写真:
 水稲生育状況(出穂期/最盛期)
 [撮影 令和7年8月13日]

【地域の声】

鳴子ダムが最低水位以下(貯水率0%)でもかんがい用水を補給し続けたことに対して、**「鳴子ダムが無ければ大変な事態になっていた。大崎耕土約1万haの水田で100億円を超える損失(想定被害額)を防いでくれた。」**(大崎土地改良区理事長 談)

注)本資料に記載された数値は9月22日現在の速報値であり、今後変更される場合があります。

鳴子ダムの現状

●6月中旬から貯水位が低減し、7月29日午前3時時点で利水貯水率0.0%を記録した。

令和3年8月26日(平年の状況)



貯水位: EL.240.06m(日平均値)
貯水率: 60.8%

※8/26現在における直近10ヶ年(H.29~R.6)
日平均貯水位EL.240.26m(貯水率62.5%)
に近い年次の貯水池状況を示す。

令和7年8月26日(13:20現在)



貯水位: EL.220.95m
貯水率: 0.0%

鳴子ダム完成(S.32)以降第1位
の既往最低貯水位EL.220.86m
〔R7.8月27日 2時生起〕

令和7年9月30日(11:10現在)



貯水位: EL.241.96m
貯水率: 77.1%

現在の貯水池

令和7年6~8月期は平年比27%の著しい少雨であったが、9月期は、一転して月総雨量257mm(直近10ヶ年第4位)と平年値より30mm程度降雨量が多かった。また、かんがい期が終了して水田への用水補給が不要となった影響もあり、急速に貯水位は回復している。